

無知と恥

M子さん

あなたの言われることはよくわかります。私の文章は、フランス語（あなたに送ったもの）が原文です。英語や日本語にも翻訳されているようですが、あの文章で問題にしたかったことは二つ。一つは入国管理局の措置は、いわゆる「人権」という普遍的な人の権利に抵触していること。もう一つは、日本の法務大臣がこの措置を実施するにあたり「日本領土にアルカイダのメンバーが自由に出入りしている」という虚偽に近いことを理由にしたことです。「人権」に関して法務省の見解は明治時代とあまり変わっていません。人口の 2 パーセント以下の外国人の犯罪率がもし異常に高いと言うのなら（私はそうは思いませんが）、その内容を示した上で別の対策を講じるべきです。また生体情報を記録保存するというのなら、外国人だけでなく日本人にも強制しないと外国人の納得は得られません。

国籍や外見、言語で人を分けることには長け、普遍的な人権という観念の薄い日本人については、藤村先輩の「夜明け前」を読んでみたらどうですか？日本人の外国人に対する差別的視点は維新のころと本質的には変わっていないどころか醜悪にさえなってきました。人間（外国人であろうが日本人であろうが）というものの法的権利に敏感であるべき法務大臣が、この程度の人である国の将来は暗い。こうした日本の国際化は、国籍や言語の違いをもとにして、差別をいたずらに助長するだけです。先日テレビで、入国手続きのときに「日本人に化けてトランジットするアジア人がいるから、（顔つきを観察するだけでなく）日本語で呼びかけてみよう」と教官が入国管理官に教えていました。日本語ができないアジア人に要注意、ということでしょう。なさけなくなりました。

ルモンドの電子版にのったこの文章に、日本でも外国でも賛同してくれる方は多いのですが、あなたのような方向で考える方も多く、仏文研究室に貼ってあるあの文章は二度消えました。剥がす人はどんな人だろうか。テロの本質については「フランス語のなかのテロ」と題して、雑誌『ふらんす』で論じたことがあります。明学の私のサイトの項目12)に埋め込まれていますから、興味がありましたらクリックしてみてください。google でも私の名前で検索できます。

出入国時の生体情報のリスト化を始めたのは日本がアメリカについて世界で二番目だそうです。記録をどのくらいのあいだ保管するのか、アメリカとの共通化があるのかないのか、というような点をうやむやにしたままこうした方法を導入しています。アメリカはこの方法を他国にもすすめたが、どの国も従わず、従ったのは日本が初めて、それもアメリカの3年後にです。

この方法はテロ対策には役立たないとされていました。こうしたときにテロ阻止を言い出した鳩山法務大臣は人をバカにしているのでは、と私は思います。あなたが言うような犯罪減少効果があるのなら、テロ対策ではなくそうした通常の犯罪対策を理由にすべきです。自爆テロは通常の犯罪ではなく政治的行為です。

9・11を実行した人は、アメリカに長期滞在していた人。いわば「人種のるつぼ」と言われているアメリカ文明の産物です。張本人と言われている Ben Laden もフセインも以前はアメリカの味方だったことは周知の事実。現在もアルカイダを支える資金はアメリカを中心とする世界経済に投資され、アメリカやスイス（の銀行）からいろいろ迂回してテロリストに渡っているのだそうです。現代のテロ事情は力（金融、軍事、オイル）の論理を基盤にした倒錯した現実です。

自爆テロの実行者は前科のない者が多く、死ぬことが成功なのですから、幽霊にでもならなければ何回も他国に出入りするはずがありません。新聞によればアメリカのこの方法は3年やったが効果はないらしい。あたりまえのことです。自爆テロに走る人を、こうした方法で抑えることができるだろうか？あなたのところに入った（外国人かもしれない）泥棒が、テロ対策措置で捕まると思いますか？これに反対する日本の外国人の多く（家族の誰かが外国人）は、なぜ日本人と外国人と分けるのか、と言っています。なぜ日本人の出入国の際、指紋採取、写真撮影を強制しないのかと。このほうがあなたの泥棒の捕まる確率はたかまります。

日本でのテロ（的）行為は外国人によって行われたことはほとんどありません。明治時代の生麦事件から始まって、オウム事件に至るまで、テロ行為の実行者は外国人ではなく日本人でした。フランス語でも英語でも、自殺攻撃をカミカゼという日本語を用いますが、こうした日本でテロを含む潜在的犯罪者とみなされ、生体データが保存されてしまう外国人は不愉快でしょう。外国人の語源はギリシャ語の xenos ですが、xenos とは「客人」です。人を認識することを機械にまかせ始めた現代文明は、「友」を「敵」に変えてしまいました。自爆テロは武器を持たない者の最終攻撃手段であり、これを防ぐことはできないのです。つまりテロに対する最良の防御は、他者をそこに追い込んでではないということです。

最近の日本で恐ろしく感じるのは、なにか未解決の事件や恐ろしい事件の犯人を、まず外国人ではないかと想定すること。先日、長崎の佐世保で銃を乱射し、二名の死者と多くの負傷者を出した事件がありました。犯人は逃走し、後に自殺した姿で見つかりましたが、犯人は「縮れ毛で、黒い（つまり黒人）」という情報が流れました。実際は正真正銘、だれがみても日本人。今日の新聞にも警官が線路に突き落とされて重傷、犯人は二名の中国人、というのがあります。これも実際はかなり違ったものではないかと思いますが、外国人を恐れるこうした感情こそ恐ろしい。

私が大学生のころ、学長は朝永振一郎という物理学者でした。彼はパグウォッシュ会議という、核兵器廃絶のための科学者の世界会議で重要な仕事をしていましたが、彼は「米ソの激しい核武装競争の根底には相互の強い不信、恐れのお持ちがあった」と言っていました。こうした他者に対する恐怖心が核兵器という究極の殺戮兵器を生み出したわけです。人間が絶滅するのは地球の環境変化以前に、他者への不信と恐怖によるものでしょう。こうした心情を助長させるものでしかない今回の日本政府の措置には絶対賛成できません。

あなたの同期の岩波のNさんは「これはアクセントを儲けさせるだけ」と言っています。この「アクセント」という会社は、アメリカから大西洋バークレー諸島に本拠を移し、IT通信、コンサルタント業務ソフトや登記情報システム開発などを専門にしている企業です。アメリカがその出入国管理システムを採用し、日本も、日立を通じて採用を決めました。アメリカは戦争さえ民営化していますが、日本も防衛や犯罪阻止という、異論がでにくい分野を民営化、つまり商業化しようとしています。この方法でアメリカは世界の一元化を狙っているのではないかと。十字軍の頃からある「自爆テロ」を犯罪とみなす視点と、テロ活動阻止のためと称して、インド洋での米軍を中心とする艦船への給油活動を当然視する視点とは同じものです。

もてなし、自衛、友情、愛、弱者へのいたわり、本来取引されるべきではないこうした人間的なものがすべて民営化され、他者によって管理されています。現代は、本質論がないまま表面的、対症療法的に犯罪捜査、対策、阻止、ということさえ商業化される社会です。教育という、取引とは遠いものであるべき分野がもっとも商品化されている国がアメリカと日本です。大学の授業料がこれほど高い国はありません。基本的には（少数の私立学校を除いて）授業料のないフランスはこの点では頑張っています。しかし日本からフランスに行く最近の留学生の多くは、日本的（アメリカ的）価値観に少しの疑問を持つこともなく戻ってきます。なんのための留学だろうか。

政府には、世界（アメリカだけかな？）に尊敬されなくてはならない、という固定観念があるようですが、この政府が、世界の現実と大きくずれていることに気付いていないように見えるのは悲しい。 　くどう　2007年 12月24日